

# 好評により常設展になりました！

## どう さか い せき つぼ こ せん 堂坂遺跡の壺と古銭

堂坂遺跡は、昭和46年（1971年）に、宝塚市立西谷中学校の運動場拡張工事の際に発見された備蓄銭埋蔵地です。直径5m以上の土坑内に7個の壺が一行に並べられて埋納された状態で発見されました。各壺の中には銅銭が銭縹（ぜにさし）で縛られて収められており、7個のうち6個の壺には片口鉢や石で蓋がされていました。土坑の状況から壺は何らかの目的で隠匿されたものと考えられています。

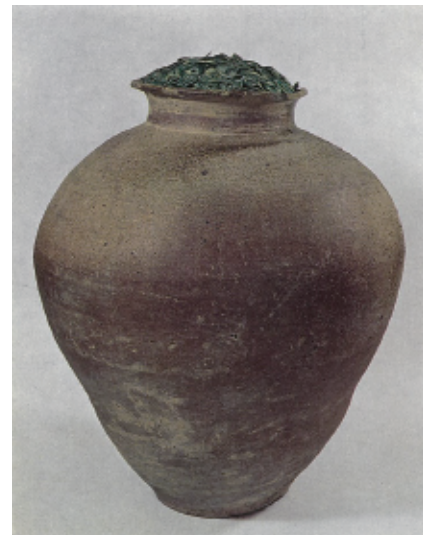
7個の壺は室町時代中期以降に製作された古丹波のもので、大きさは最大の7号壺で高さ60cm、胴径は約50cmです。

古銭は大半が中国銭で、古くは後漢の五銖銭、新しいものは明の永楽通宝であることから、室町時代中期以降から戦国時代にかけて収められたと考えられています。

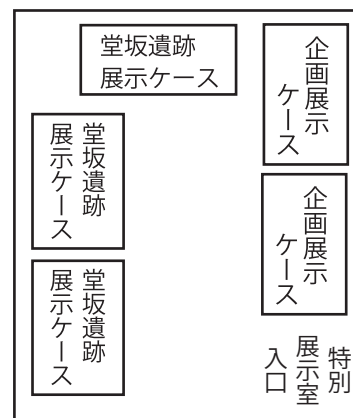
全国的にみても、これほどの量の埋蔵銭が発見された例は少なく、壺・古銭ともに貴重な遺物として国保有文化財とされています。展示では、壺と古銭の一部を実際に展示してご紹介しています。



【「堂坂遺跡の壺と古銭」展示の様子】



【出土時の7号壺】



【特別展示室内配置図】

## こ はま しゆく 宝塚市立 小浜宿資料館ご案内

資料館がある”小浜地域”は、15世紀末（室町時代）に建てられた毫摂寺を中心に「寺内町」として成立しました。江戸時代になると、大阪や京都と有馬・西宮を結ぶ交通の要衝であったことから「宿場町」として大変栄えました。現在も当時の面影がある町並みが一部に残っています。資料館では、小浜地域の歴史や資料の紹介や、当時の小浜の町並みを再現した見応えあるジオラマを展示しています。



小浜宿資料館外観



小浜宿資料館内観

